



牧田地区地域計画

2020年4月～2024年3月

誰もが誇れる『住み良いまち牧田』を目指して



牧田地区地域づくり協議会
地域計画策定委員会

Email : info@suzuka-makita.com

HP : <https://suzuka-makita.com/>



目 次

1. はじめに	1 ページ
2. 経緯	2 ページ
3. 地域計画策定スケジュール	3 ページ
4. 牧田地区の姿（歴史と現状）	4. 5 ページ
5. 地域の抱える課題	6. 7 ページ
6. まちづくりの方策	8. 9 ページ
7. こんなまちにしたい	10. 11 ページ
8. 組織体制図	12 ページ
9. 牧田地区地域計画	13 ページ
10. 牧田地区地域づくり協議会の歩み	14. 15 ページ
11. 地域づくりの取り組みの効果	16. 17 ページ
12. おわりに	18 ページ

現在の牧田地区中心部の全景



1. はじめに

(1) 地域計画の位置づけ

地域計画は、「鈴鹿市総合計画 2023」の後期基本計画に合わせて、牧田地区地域づくり協議会が主体的で計画的な活動を進める為に、2017年から2020年にかけてまとめたものです。

牧田地区では、2007年8月31日に策定した地区グランドデザイン（旧計画）を作成して、この10年間の地域づくり活動を進めて来ました。

これを見直す為に2017年12月に地域計画策定委員会を設置し、新たな地域計画のキックオフ宣言をすると共に、地域課題を収集し課題解決の為に公募委員や市地域支援職員の参加を求め取り組んで来ました。

策定に当たっては、地域の広報誌「コミュニティまきた」で、計画概要を紹介するなどして住民の声を求めると共に、8つのテーマ別に部会を設けながら、二年半にわたって協議を進め、計画的・段階的に取りまとめて来ました。

(2) 地域計画の基本コンセプト

これまでの地域活動は、行政指導により、社会福祉、防犯、スポーツ青少年育成など分野ごとに団体が設立され、その活動も補助金を受ける為に行政主導で計画や運営を行う傾向が強かった。各団体は、人、物、金を自治会に頼り、地域住民の主体的民主的運営に課題が多かった。

昨今は、自治会長が1～2年で交代する為に、継続的に取り組むべき課題解決に問題があり自治会に委ねるだけでは住んで良かったと思う地域活動に繋がらないと言う意見が多く出される様になった。

市税である自治会事務委託料も、市民活動以外に使われるなど問題もあり、今後、補助金等は地域経営を委ねる地域づくり協議会活動資金として、一括交付する方向性が出されて来た。

地域づくり協議会組織の中で、団体のネットワーク化を進め、地域協働の役員体制事務局機能を強化して自らの力で福祉、環境、安全、安心の地域計画実現に向けて取り組む地域づくり協議会体制が必要になって来ている。

(3) 地域計画の目的

地域計画は「自分達のまちを自らどの様にして行くのか」という視点に立ち、誰もが誇れる「住み良いまち牧田」の実現を目指し、地域の皆様の力を結集して取り組んで行きます。ひとりでも多くのボランティアの方々が集まり、私たち牧田地区の偉人前川定五郎翁の心「人の喜びは我が喜び」を抛り所にして、人のため、地域のために地域の総力を挙げて地域計画の実現を目指すことにしました。

2. 経緯

地域づくりの勉強会を始めた 2005 年当時、市内では本格的な地域づくり活動に取り組んだ事例がなかった為、宝塚市、名張市、伊賀市等先進市視察や講演、勉強会から始めました。人を動かす力、地域づくりの組織力と継続性、広報誌発行などによる認知度を高めて行くことから活動を開始しました。

2007 年地域づくり協議会設立準備委員会を立ち上げた当時、まず牧田地区には、どのようなかたち（ランドデザイン）のまちづくりが相応しいか意見を求め、アンケートや自治会との話し合い、協議会組織の在り方等の協議を重ねて、安全で暮らしやすいまちを目指して地域活動の研修を進めて来ました。

地域づくり事務局は、地区市民センターや公民館職員に任せるのではなく、自分たちの手で、自分たちの為の地域をつくる、という考えに立って事務局体制を整え、その充実に努めました。

牧田のランドデザインを創る為に、諸団体との意見交換会、アンケート、KJ法ワークショップなど様々な取り組みを通じて、柱とすべき計画を描きながら、取りまとめて来ました。

過去 10 年間の活動を振り返り総括すれば、ランドデザインを発表しても住民の関心は低い為に、初めは認知度を高める狙いからイベント中心になりました。その後は地域教育、子育て支援、多文化共生、定五郎翁顕彰事業などわかりやすい事業にシフトしながら活動して来ました。

地域の課題探しでは、鈴鹿市における牧田地域の在り方、活性化、企業を含む牧田地区の位置づけ等、市が示す後期基本計画に合わせて地域計画の策定に取り組むこととしました。



地域計画策定スケジュール

基本的な流れは、策定委員の選出→調査研究→定例会議に提案→意見→策定委員会として検討。これを繰り返して、年度末には地域計画の草案を作成する。現在地域づくり協議会と直接的な結びつきを持っていない団体（地区社協、農業委員会、商工業分野）も必要に応じて、適宜意見交換会を持ちながらヒヤリングを実施する。こうして作成された草案をもとにして、来年度の総会までに最終案をまとめる。

策定計画の流れ

項目/年月	平成29年12月	平成30年1月	平成30年3月	平成30年6月	平成30年10月	平成30年12月	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
策定委員会	策定委員選出と発会（役員・支援員から会長選出他公募委員等）	5月以降の課題を分野別分類	委員会開催ワークショップ総括	団体アンケート	委員会開催アンケート総括	包括的な地域計画デザイン	委員会開催事業分類	分類した中長期計画項目の扱い	委員会開催行政と地域の役割分類
公募策定委員	「コミュニケーションがきた」発行に併せて募集要領掲載	応募者と支援員の参加	応募者と支援員の参加	応募者と支援員の参加	応募者と支援員の参加	応募者と支援員の参加	支援員との懇談		
定例会	第4水曜に意見交換	第4水曜に意見交換	第4水曜に意見交換	第4水曜に意見交換	第4水曜に意見交換	第4水曜に意見交換	第4水曜に意見交換	第4水曜に意見交換	第4水曜に意見交換
追加的取組み	地域計画策定の為の「住民の意見のまとめ方」講演会	環境、整備、福祉、文化等分野別項目の分析	地域カルテ分析	地域カルテ分析				項目シートに強み弱み効果や実現性を記入	項目シートに強み弱み効果や実現性を分析
福祉団体意見			少子高齢化	農業商業分野					
諸団体意見									
予備意見調整					公民館活動連携	その他の方法		地域協働課	地域協働課

地域計画の流れ

項目/年月	平成31年4月	令和元年5月	令和元年9月	令和元年10月	令和2年3月	令和2年3月
策定委員会	総会に図る計画概要検討	総会に図る計画概要検討	計画策定案	計画策定案	計画原案	計画提出
予備意見調整	地域協働課					

地域計画作成に当たっての確認事項

1. 支援職員の方には市が持っている人口統計等、多くの調査項目の書類作成とデータ収集を依頼しなければならぬ。
2. 計画策定に関しては、地域住民から策定委員の公募を行い、可能な範囲内で内容を反映すべきとの意見が多く寄せられている。
3. 提案される意見の中には、行政が行うこと、行政と協働して出来ること、地域住民だけで出来ること、NPO団体等の地域団体と協働すること等意見の相違を調整する。
4. 地域計画の内容をどこまで書き込むのか、都市整備等ハード事業の計画は、支援職員が担当部局と意見調整を進めるのか、地域の声の反映、意見集約の仕方はどうか。
5. 地域計画作成に当たって、市の基本計画や環境基本計画、防災計画、都市マスタープラン、福祉基本計画等との整合性や調整、計画実行性の担保はどうか。

4. 牧田地区の姿（歴史と現状）

牧田地区の歴史

牧田地区では、延喜式年時代（平安時代927年頃）から4つ集落を中心に神社が残っている。ここには古くから伝わる歴史的な文化遺産が引き継がれている。奈良時代の続日本書紀には、今の鈴鹿川中流域を治めたと思われる、鈴鹿郡枚田郷（平田町）戸主川俣何某とあり、又、源義経の部下、岡部六弥太が一の関合戦の功により甲斐町の地頭職になっている。

室町時代、平田喜国が足利義教より比叡山山法師撃退の功により、海善寺城を築きその後、枚田御門垣内に築城した。後の城主、平田兵庫頭賢元は有名です。明治期は前川定五郎を輩出し、昭和期は軍都となり、戦後大企業が進出した。

牧田地区の地理的条件

鈴鹿市の中間にあたり、北に鈴鹿川が流れ、その周辺には農村集落と古くからの文化を伝える神社や寺院がある。戦前までは、平野と山林、小川や池に囲まれた静かな日本の典型的な田舎でした。今も鈴鹿川沿いに残る田園風景は、住民の安らぎの場と憩いの空間です。



牧田地区の現状

鈴鹿市が歩んできた道と重なる鈴鹿の縮図のような町です。昭和 14 年頃から牧田地区に海軍工廠が立ち並び、その周辺は軍人宿舎や、住居が林立し県外各地から兵士とその家族が住み始めました。

最も特徴的な所は、戦後海軍工廠跡地に鈴鹿市を支える自動車工場と化学工場の二つの大企業が立地されている。



もう一つの特徴は「人の喜びは我が喜び」とする郷土の偉大なボランティア活動家前川定五郎翁の生誕地であること。又、南米を中心とした多くの外国人が移り住むまちです。

市民の生活や雇用を支える既存産業などの維持と活性化に向けて幹線道路の沿道に立地する商業・飲食・サービス施設等の沿道型施設については、新たな商業機能の維持を図る沿道利用ゾーンと位置づけ、市の後期基本計画と協働して取り組む。

- (1) 鈴鹿市で人口規模も大きく、とりわけ経済規模は群を抜いている。
- (2) 鈴鹿市の産業基盤となる市経済を支える大企業を抱えている。
- (3) 鈴鹿市の一翼を担っていて、民間活力のあるまち、商工業を中心とした活気のあるまち並みを形成している。
- (4) 大型ショッピングセンターが隣接し、弁天山公園では多くの団体が、全市的イベントを開催して若者の集まるまちになっている。
- (5) 県下有数の社交業及び飲食店を抱えており、夜間の集客力は市内で最大規模である。
- (6) 多くの外国人が集住するまちである。



5. 地域の抱える課題

1. 住民アンケートや団体交流から出された意見提言

- (1) 大型店、会社、商連、学校等と地域団体の連携が少ない為「地域活性化」の社会貢献活動と住民交流を結びつける活動が必要である。
- (2) 地域のマンパワー（人）、施設備品（物）、組織資金（金）を有効に活用する。
- (3) 地域のコミュニティ活動につながる事業イベントが必要である。地域のコミュニティ意識を高める為に、人々の参加と交流の場をつくる必要がある。
- (4) 牧田地区には外国籍住民と一緒に生活している実態（多文化共生社会）がある。
- (5) 地域のボランティア活動を進める為に、前川定五郎顕彰事業により、定五郎翁の心を生かす「人の喜びは我が喜び」の言葉を、そのまま地域活動を支えるキーワードとして生かすことが必要である。
- (6) 交番管内の犯罪件数が多く、地震防災など「安全安心の課題」がある。犯罪発生が多い、交番の所在も分かりにくいことから住民を守る活動を活発にする必要がある。
- (7) 企業、法人も地域貢献活動を支える一員として、地域協働の取り組みに積極的に参加する仕組みづくりが必要である。

2. 地域カルテから見た地域の満足度が低い項目（満足度向上検討取組み項目）

防災・安全

- (1) 暴力や犯罪などからの安全性確保。（防犯対策）
- (2) 交通安全確保。
- (3) 自然災害からの安全性確保。（防災・減災対策）

都市整備

- (1) 公共交通機関の便利さ。
- (2) 道路や公共施設のバリアフリー化等。
- (3) 雨水排水施設の整備。（河川改修等）

環境

- (1) 省エネや再生可能エネルギーの促進。
- (2) まち並みや景観の保全。

教育・文化

- (1) 高校・大学・専門学校教育の充実。
- (2) 芸術文化の振興。

保険・福祉・医療

- (1) 高齢者福祉の充実。
- (2) 介護サービスの充実。
- (3) 障害者の自立支援や社会参加。
- (4) 医療体制の充実。

産業・観光

- (1) 中小企業の活性化。
- (2) 労働環境の充実。
- (3) 観光振興による地域活性化

その他

- (1) 近隣住民との連携強化。
- (2) 市民参加によるまちづくりの充実。
- (3) 市民活動の支援。
- (4) 情報発信の充実。

地域の抱える課題 住民意見108項目

1 地域安全	2 地域交流	3 地域教育	4 地域環境	5 地域福祉	6 地域整備	7 地域文化	8 地域活性
①防犯(安心安全)パトロール	①スポ・レク活動推進事業	①前川定五郎資料室開放	①ゴミ分別	①介護研修	①景観保護と街並み整備啓発	①歴史文化の継承(延喜式内神社等古くから伝わる文化)	①地域づくり(まちづくり)課題解決型研修会
②災害から身を守る為の防災訓練	②ジョギング・ウォーキングの励め	②前川定五郎資料展	②リサイクル活動の推進	②お笑い健康香席	②平田町駅前整備計画	②伝統文化の継承(砂かけ神事・行者盆行事)	②地域計画の継続的見直し
③地区防災計画策定(地震台風含む)	③まきた弁天山まつりの継続発展	③定五郎いかにた流し(夏の鈴鹿川体験事業)	③「環境の日」の周知徹底	③不定期敬老会	③道路命名(F-1ロード、定五郎道路)	③平田城址(平田兵庫頭)歴史継承	③鈴鹿さくら祭り発表と継続支援
④災害時給水体制(老人にも優しい)	④牧田お茶の間サロン	④「定五郎物語」を道徳教育に	④道路清掃花手入れ(表彰)	④幼児教室	④賑わいと楽しむあるまち開発	④牧田の歴史と文化掘り起こし(郷土史編集)	④他業種他団体と地域交流会
⑤振込め詐欺防犯対策教室	⑤じじばばの知恵袋会	⑤「定五郎物語」アニメと本の普及	⑤自治会公園美化活動	⑤子育て支援活動子供サロン	⑤買い物しやすいまちへ	⑤時代写真収集	⑤牧田地区(商店会発表会)の一本化
⑥窃盗防犯対策などの啓発教室	⑥「プロボノ/プロ並み知識経験」登録、スキルを生かし社会貢献	⑥「定五郎物語」作文コンクール	⑥鈴鹿川で花と緑里親運動(彼岸花ささゆりなど)	⑥子ども食堂支援	⑥私鉄・バス・乗り物利便性のあるまち	⑥明治大正昭和の古文書収集と整理	⑥地域づくり(団体役員)後継者・推薦者探し育成事業
⑦被災・避難防犯ボランティア活動	⑦牧田クールスポット10選	⑦学区別おやじの会などの連携	⑦家庭園教室	⑦在宅一人暮らし高齢者支援	⑦公民館サークル生の新加入促進と活性化	⑦公民館サークル生の新加入促進と活性化	⑦三重消防団応援の店拡大事業
⑧社交業、夜間飲食の防犯対策	⑧牧田裏め合い隊	⑧新米吟醸酒「定五郎物語」普及	⑧牧田農業小学校	⑧介護相談カフェ	⑧北勢ハイパスを考える	⑧生涯学習活動と地域活動の連携強化	
⑨私のおうちも健康診断(家具転倒等)	⑨多文化共生のつどい(継続発展)	⑨子どもフェスタ	⑨歩いて「町の環境景観美化」総点検	⑨グランドゴルフなど健康啓発	⑨道路の舗装補修対策	⑨地区文化祭の支援	
⑩道泊池耐震性と決壊時のハザード	⑩国際交流ふれあい活動	⑩親子夏休み体験子ども工作教室	⑩空家住宅利用と廃屋対策	⑩ラジオ体操健康づくり	⑩平田町駅前周辺整備	⑩みんなの音楽会(映画会、演芸会)	
⑪交通安全対策「ゾーン30」	⑪外国人の地域活動参加支援強化	⑪課題解決型授業(アクティブラーニング)	⑪鈴鹿川の自然環境保全活動	⑪民生委員登下校、見守りあいさつ指導		⑪昔の農具、生活道具の保存と継承	
⑫散歩時の防犯活動とゴミ拾い啓発	⑫日本語教育ボランティア支援		⑫鈴鹿川学校・ファンクラブ	⑫老人会活動との連携			
⑬通学路の安全確認とハットロール	⑬単位自治会活性化と地域協働		⑬生ごみリサイクル(水分減量)運動推進	⑬認知症の方への声掛け訓練			
⑭迷惑駐車対策	⑭地区内サイクリング		⑭アースデー「電気を消して」体験事業	⑭バリアフリー検証(道路施設等)			
⑮消費者トラブル	⑮牧田ウォーキングマップ		⑮市道公園の草刈り樹木剪定者のためのシール)啓発	⑮ヘルプマーク(見えない障害者のためのシール)啓発			
⑯防犯灯の設置取り換え			⑯地元野菜展示即売(文化祭)	⑯「我が事丸ごと」地域共生会の推進			
⑰火災警報装置取り付け呼び掛け			⑰ごみ焼き野焼き禁止呼び掛け				
⑱高齢者交通事故対策			⑱犬のフン害対策				
⑲危険箇所点検(交通安全・防犯防災)							
⑳消防団活動の支援の在り方							

6. まちづくりの方策

1. 地域計画策定に向けた取り組み

地域の範囲は、具体的には単に地形などの自然形態によって区分される地域であるだけでなく、生活文化、歴史的経過などにより、人々が結び付いている現状を考慮して計画の範囲、活動内容を形づけるとされています。

牧田地区では、人々の生活圏は単位自治会の連合体である、自治会連合会を所管する地区市民センターを中心とした行政区が基盤となって、地域づくり協議会の活動が求められて来ました。

- (1) 策定にあたっては、地域住民も含めて地域計画を論じ、地域活動の広がり（範囲）を定めて、計画を立案していく必要があります。
- (2) 単位自治会の活動や運営の重要性に鑑み、地域づくり活動と深く関わって取り組み概要をまとめて来ました。
- (3) 研修会など集まる機会を捉えて、地域住民や団体組織からアンケート方式や提案項目の提出などをお願いし、多くの課題項目を集約して来ました。
- (4) 項目を整理して部門別の計画策定作業部会を設け、ここを中心に提案課題の取り組みについて審議して来ました。この審議結果を踏まえて、計画策定本部会議で協議を重ねて来ました。
- (5) 審議内容の行方によっては、部門会議で再審議して確認し、取り組み方、作業方法、審議方法については、その都度、部門毎の代表者が集まり内容を協議して段階的に進め計画の決定に至るまで検討して来ました。

2. 地域計画実現のためのコミュニティ組織とネットワークの構築

(1) 単位自治会による住民自治の確立

自治会活動は、住民自治を支える最小単位として重要な位置を占めることから、役員、活動の場の確保に努め、子供会や自主防災隊、高齢者組織は自治会内組織として互いの助け合いと連携が求められる。

(2) コミュニティの最小単位としての自治会

自治会の「組」組織は、隣組などと言われることもあるが、良好な近隣関係の維持には、欠かせない組織であり、ひとり暮らし高齢者の見守りや、子育て世帯の支援など、地域福祉包括支援制度を支える最も身近な地域社会の母体になり得る。

(3) 連自治会や各種地域団体との連携の在り方

これまでの一部の重鎮や顔役による、地域の纏めや統制は難しい。民主的に住民自治が運営される時代にあって、連自治会が全てを担い、統率する様な時代は過去のものである。地域活動を行う全ての団体が、地域づくり協議会のもとにまとめ、ネットワーク組織をつくり、住民自治運営の中心となって民主的な活動に見直していく必要があると考える。

3. 地域計画に合わせた執行組織と専門委員会の体制

地域の課題解決の為に、住民から提案された意見をカテゴリー別にまとめ、分野別の取り組みを専門委員会に置き換えて活動的な組織改革をする。

(1) 地区市民センターの活用

新公民館完成に合わせて、地区市民センターの機能と、地域づくり協議会組織が地域運営や住民自治の取り組みには欠かせない。公民館の指定管理者委託との一体性を視野に入れて行くことが必要になる。

(2) 地域コーディネーターの役割

市民センター長だけでなく、必要に応じ民間から地域マネージャーとして、優秀な人材を育成し嘱託雇用することも検討すべきである。

(3) 地域部屋の設置と地域づくりの拠点整備

- ・事務局機能の充実が最も重要と言う意見がある。地域事務員を雇用して、市民センター職員に代わって地域事務がこなせる人員を配置する。
- ・地域事務員の雇用に見合う補助制度を定着させることが必要になる。
- ・地域事務員は、年間の雇用期間が限定的となることを考えると、地域事務員の不在時には地区市民センター職員がカバーする必要がある。

4. 企業や商店会等との協働

(1) 本田技研工業(株)鈴鹿製作所、旭化成(株)鈴鹿製造所等との地域協働活動の意識を話し合う場を設定し、安全、防災、環境問題等必要に応じて、地域運営に関する協議を行うことに理解を深める必要がある。

(2) (株)鈴鹿ハンター、医療法人誠仁会 塩川病院、平田商店会、算所町発展会、鈴鹿ストーリーホテル、太門通商(株)、学校法人鈴鹿享栄学園 鈴鹿中等教育学校との間で地域活性化、地域貢献活動に協力協働する。

5. 地区計画の活動範囲

(1) 牧田地区における地域づくり協議会の活動範囲は、牧田地区市民センターが所管する自治会の区域をもって構成する。

(2) 小学校区との連携、協働活動は、関係周辺地区及び自治会と必要に応じ協議調整する。

7. こんなまちにしたい

1. 誰もが誇れる「住み良いまち牧田」

牧田地区は、海軍工廠やその跡地への企業等の立地により発展し、そこに働く場所を求めて、地域、環境の違う所から多くの人が集まって来ている。「みんなが違う」ことが牧田地区の多様性を物語っている。

地域計画は、時代のニーズ、社会の多様性、地域特性を前提として、住民一人ひとりの意識と地域づくり活動の継続によって、少しずつ成し遂げられと信じている。

地域づくり協議会は、外国人も含む全ての地域住民が、まちづくりに参画することで誰もが誇れる「住み良いまち牧田」が実現することになると考えている。

2. 地域づくりの柱となるもの（暮らしを守る快適なまち）

(1) 安心安全のまち

- ・ 防犯パトロールで地域の安全を守る活動の継続。
- ・ 防災力向上の為の自主防災隊の活性化。
- ・ 消防団員の確保、地域消防力の向上。
- ・ 環境保全、環境美化意識の向上。

(2) 地域交流が盛んで住民同士が心を通わせ、助け合って生きる温かいまち

- ・ スポーツやレクリエーションを通じて健康で明るく楽しく集えるまち。
- ・ 前川定五郎翁の心「人の喜びは我が喜び」とする思いやりのある温かいまち。
- ・ ボランティア活動によって支えられるまち。
- ・ 日本語の出来ない外国人などと協働で生活する多文化共生のまちづくり。

(3) 子供の育成と地域教育の支援、豊かな文化と伝統文化遺産を伝えるまち

- ・ 地域の教育文化を住民が支援し、伝統ある文化遺産を守り後世に伝えるまち。
- ・ 少子化を支え合える地域、子育てがしやすい地域をつくる。

(4) 地域の活性化（活力と賑わいのあるまち）

- ・ 活力と賑わいのあるまちづくり。
- ・ 基幹道路の整備と環境を整え、便利で生活しやすいまちづくり。

(5) 地域福祉（高齢者の暮らしを守り、住民が支え合う体制のあるまち）

- ・ 高齢者、障害者が住み慣れた地域で健康で暮らせる地域ボランティア活動。

3. SWOT 分析からみた「こんなまちにする」ための取り組み

(1) 地域安全

- ①「地域防災」自主防災隊の連携と組織強化対策。地域防災訓練の定期化と防災教育の充実。地区防災計画策定。
- ②「地域防犯」地区防犯委員会と警察署、交番との定期協議。
- ③「地域消防」消防団員の確保、地域消防力の向上。

(2) 地域交流

- ①「まつり」牧田地区住民交流の要となる弁天山祭りの開催と参加住民の増加。
- ②「スポーツとレクリエーション」サイクリング、ジョギング、ウォーキングなど地域における軽スポーツ活動。市内外の体育競技への参加啓発、青少年スポーツへの理解と協力。
- ③「多文化共生」外国籍住民との身近な交流と、生活文化の理解を深める活動。外国人住民が地域住民の一人として共生して生きているまち。

(3) 地域教育

- ①「公民館と生涯学習活動」
- ②「前川定五郎翁顕彰事業」

(4) 地域環境

- ①「環境整備」環境整備の日を定着化、全ての住民による清掃活動を続けるまち。ゴミリサイクルを徹底させ、エネルギー消費や地球温暖化を防ぐまち。

(5) 地域福祉

- ①「社会福祉活動」福祉委員会を設置。(地区社会福祉協議会でもある)
- ②「民生委員・児童委員活動」民生委員会(民生委員・児童委員協議会でもある)
- ③「高齢者支援活動」お助け支援委員会(助け人登録、助成制度、請負事務局等)

(6) 地域整備

- ①「中央道路の並木道保全と桜並木維持要請」
- ②「地域の公園整備」

(7) 地域文化

- ①「地区文化祭の支援発展」
- ②「地域の歴史伝統文化継承」

(8) 地域活性化

- ①「商店会等と協働した地域活性化活動」
- ②「平田町駅周辺の整備」

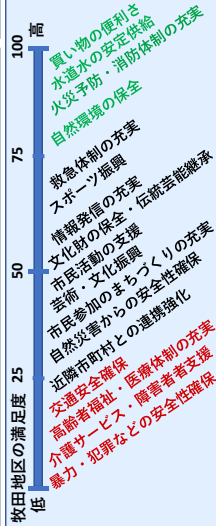


牧田地区地域づくり協議会 地域計画

2020年3月1日

地域の現状

【牧田地区】
 鈴鹿市の真ん中あたりに位置する牧田地区。北部を鈴鹿川が東西方向に流下し、中央に近鉄鈴鹿線平田町駅があり街区が形成されている。旧海軍工廠跡に誘致された本田技研工業、旭化成と、大規模小売店舗などによって商・工業と住宅地帯が混在し、市内では白子・神戸地区などに3つもの核として発展している。
 ・人口14,835人（男性7,715人・女性7,120人）
 ・世帯数7,215世帯
 （2019年9月末資料）



【これまでの取組みと経緯】
 地域で出来る事は地域が主体性を持って問題を解決して行くと言う趣旨に基づき
 ・2004年～2006年地域づくりについて勉強会発足
 ・2007年～2009年牧田地区地域づくり設立準備委員会発足
 ・2010年5月22日牧田地区地域づくり協議会設立
 現在、牧田地区自治会連合会、牧田公民館と連携協働して「地域安全」「地域交流」「地域教育」の分野で7つの委員会と牧田公民館を中心に事業展開を行っている。

今後の展開

【これからの取組み】
 牧田地区地域づくり協議会が、「多様化する社会環境」「少子高齢化社会」に向き合った、「安全で安心して暮らせる住み良いまち」づくりに重点をおいて4年間の事業展開を計る。

【将来のあるべき姿】
 地域住民の交流を深め、通かさが感じられるまちなみ、安心して安全なまちなみ、青少年、高齢者に優しいまちづくり。
誰もが誇れる『住み良いまち牧田』の実現を目指す。

目標

「暮らしを守る安心・安全なまち」づくり。
 ・防犯・防災・交通安全の啓発を図ると共に地域の見守り運動を推進。
 「コミュニティ活動の盛んな活気あふれる魅力あるまち」づくり。
 ・子どもからお年寄りまで、住民同士が心を通わせ、助けあう温かいまち。
 ・スポーツ行事・井天山まつりの充実。
 ・地域情報の発信強化。

取組み内容

・1.1 安心安全防犯パトロールの拡大。
 ・1.2 防犯・交通安全のほり配置による活動。
 ・1.3 防犯・防災・交通安全の定期的講習会の実施。
 ・1.4 災害から身を守るための防災訓練の充実。
 ・1.5 防災委員会と自主防災隊との連携と組織体制強化。
 ・1.6 地区防災計画策定。
 ・1.7 消防団員の確保と地域消防力の向上支援。

・2.1 スポーツ行事の参加者の拡大（グラウンドゴルフ・ジョギング大会）
 ・2.2 他地区のスポーツ団体との交流の活発化（いきいきスポーツ大会）
 ・2.3 井天山まつりの充実。
 ・2.4 多文化共生事業の推進。
 ・2.5 まきたコミュニティ広報紙での情報発信強化。
 ・2.6 ホームページの認知度拡大と情報発信強化。

「子どもの育成と豊かな文化に育まれたまち」づくり。
 ・地域教育の支援と伝統文化遺産の継承。
 ・五郎翁のボランティア精神の継承。
 ・夏休み親子体験教室。
 ・公民館生涯学習。
 ・小学校授業支援。

【活気あふれる地域交流】
 ・地域活動拠点として牧田地区市民センターがある。
 ・3000人以上の地域住民と交流を図れるまきた井天山まつりがある。
 ・スポーツ・レクリエーション行事で、大人から子供まで交流出来る行事がある。（ジョギング大会・ウォーキング大会・グラウンドゴルフ大会等）
 ・多文化共生事業で外国人との交流がある。
 ・地域の事業に協賛して頂ける企業・病院諸団体がある。

【地域の安心安全】
 ・警察・交通との連携。
 ・地区内の犯罪率が低い。
 ・振込め詐欺。
 ・アパート・マンション住民の安全活動の参加が少ない。
 ・地区防災計画がない。
 ・災害時の避難場所を知らない地域住民がいる。
 ・横断歩道、一時停止線が消えている。
 ・横断歩道に歩行者専用信号がない。

・3.1 五郎翁作文コンクールの参加小学校拡大。
 ・3.2 定五郎資料室へ来訪者の拡大。
 ・3.3 定五郎写真巡回展示会の拡大。
 ・3.4 夏休み親子体験教室の拡大。
 ・3.5 公民館活動支援の強化。
 ・3.6 牧田地区文化祭の充実。
 ・3.7 小学校学習支援の充実。
 ・3.8 牧田文化遺産の情報発信の強化と閲覧拡大。

【歴史と文化の薫る教育のまち】
 ・前川定五郎翁の橋づくりにかけた熱い思いを継ぐ顕彰事業委員会がある。
 ・牧田小学校内に前川定五郎資料室があり道徳教育の場となっている。
 ・前川定五郎翁巡回写真展が開催できる。
 ・小学校より学習支援の要請があり交流がある。
 ・生涯学習の公民館活動が活発に行われている。
 ・神社・寺院が所蔵する牧田地区文化遺産がある。

【地域交流】
 ・三世代の交流事業が少ない。
 ・自治会間の交流が少ない。
 ・地域住民の繋がりが弱い。
 ・若者が興味を持つような事業が少ない。
 ・外国人との多文化共生。

【地域文化】
 ・少子化の進行。
 ・地域の伝統や文化、自然を知らずに育つ子供が増えた。
 ・前川定五郎翁のボランティア精神の伝承。
 ・前川定五郎資料室への動員と資料室来訪。
 ・小学校への学習支援の充実。
 ・伝統ある地域の文化、歴史を後世に伝えていく。

「高齢者に優しいまち」づくり。
 ・高齢者・障害者を住民が支え合うまちづくりを推進。
 「活力と賑わいのあるまち」づくり
 ・道路整備、地域の集いの場（地区敬老会）事業の推進。
 ・在宅福祉サービスの検討準備と企画立案。

【地域活動】
 ・地域活動の活性化。
 ・地域活動の活性化。
 ・地域活動の活性化。
 ・地域活動の活性化。

【地域福祉】
 ・高齢者の進行。
 ・高齢者の一人暮らしの増加。
 ・在宅サポート支援。

【地域教育】
 ・地域教育の活性化。
 ・地域教育の活性化。
 ・地域教育の活性化。
 ・地域教育の活性化。

・4.1 牧田地区社会福祉協議会と地域づくり協議会の連携強化。
 ・4.2 牧田地区民生委員、児童委員の活動支援。
 ・4.3 高齢者の集いの場（地区敬老会）事業の推進。
 ・4.4 在宅福祉サービスの検討準備と企画立案。
 ・5.1 地元商店会と協働で地域活性化活動（鈴鹿さくらまつり）
 ・5.2 純米吟醸酒『定五郎物語』のPR。
 ・5.3 平田町駅前設置自転車巡回指導。
 ・5.4 ゴミの分別・リサイクル推進。
 ・5.5 犬・猫のフン防止推進。

【地域活動】
 ・地域活動の活性化。
 ・地域活動の活性化。
 ・地域活動の活性化。
 ・地域活動の活性化。

【地域福祉】
 ・高齢者の進行。
 ・高齢者の一人暮らしの増加。
 ・在宅サポート支援。

【地域教育】
 ・地域教育の活性化。
 ・地域教育の活性化。
 ・地域教育の活性化。
 ・地域教育の活性化。



牧田地区地域づくり協議会の歩み





牧田地区地域づくり協議会
2020/3/1

2004~2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
平成16年~平成18年	平成19年 会長 松尾 守	平成20年 会長 松尾 守	平成21年 会長 松尾 守	平成22年 会長 松尾 守	平成23年 会長 伊藤 輝義	平成24年 会長 伊藤 輝義	平成25年 会長 伊藤 輝義
勉強会ステージ	地域づくり協議会設立準備委員会						
<p>地方分権一括法 中央集権⇒地方分権地方で 出来る事は地方で 身近なまちづくりとは？</p>	<p>地域づくりを理 解する ホップ</p> <p>定五郎いかだ流し</p> <p>夏</p>	<p>牧田のかたちを 考える ステップ</p> <p>わいわい祭祭り 日本舞台</p> <p>春</p>	<p>ジャンプ</p> <p>牧田地区地域づ くり協議会設立 に向けて</p> <p>女川中学校生徒招待 流しソーマン</p> <p>夏</p>	<p>発足!! 平成22年5月22日</p> <p>多文化共生を考える会</p> <p>多文化共生委員会</p> <p>平成22年度委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども見守り委員会 地域防災ネット委員会 青少年育成連絡委員会 学校ボランティア委員会 定五郎いかだ流し委員会 スポーツ振興委員会 多文化共生委員会 文化祭支援委員会 	<p>公民館建設要望</p> <p>わいわい祭祭り 日本舞台</p> <p>多文化共生を考える会</p> <p>多文化共生委員会</p> <p>平成23年度委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども見守り委員会 学習支援委員会 青少年育成町民会議 定五郎いかだ流し委員会 スポーツ振興委員会 多文化共生委員会 地震防災を考える会 	<p>総会</p> <p>秋の運動会に替わって 平成24年度からは 「まきた弁天山まつり」 を企画、開催しました。</p> <p>12月1日「鈴鹿市まちづく り基本条例」施行</p> <p>平成24年度委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校支援委員会 子ども育成委員会 定五郎いかだ流し委員会 多文化共生委員会 スポーツ委員会 地震防災を考える会 	<p>平成25年度の総会後に 生活安全部地域課課長 宮崎由美子様より 「これからの鈴鹿の地域づくり」 について講演が有り鈴鹿市の まちづくり条例と相まって 市の地域づくり協議会への 支援への意気込みが感じら れました。</p> <p>地域づくり協議会 「これからの鈴鹿の地域づくり」 ～今、あらためて、 私たちのまちは私たちの手で～</p> <p>平成25年度委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校支援委員会 子ども育成委員会 定五郎いかだ流し委員会 多文化共生委員会 スポーツ委員会 <p>・地震防災を考える会 ・特別委員会 まきた弁天山まつり実行委員会</p>
	<p>文化祭支援</p> <p>文化祭支援委員会</p> <p>秋</p>	<p>いぎいきスポーツ広場</p> <p>いぎいきスポーツ広場</p> <p>秋</p>	<p>季節に合った毎年 恒例のイベントや 地域の皆さんが気 楽に交流出来る活 動を計画</p> <p>冬</p>	<p>ジョギング大会</p> <p>ジョギング大会</p> <p>冬</p>			



牧田地区地域づくり協議会の歩み

牧田地区地域づくり協議会
2020/3/1

2014	2015	2016	2017	2018	2019
平成26年 会長 伊藤 輝義	平成27年 会長 伊藤 輝義	平成28年 会長 成田 守弘	平成29年 会長 富江 敏雄	平成30年 会長 中川 悟	平成31年/令和元年 会長 中川 悟
牧田地区地域づくり協議会					
牧田新公民館建設開始					
<p>平成26年6月10、11日に地域課と地域づくりについての勉強会を開催しました。</p> <p>平成26年7月9日に館長とまちづくりについて話し合いが行われました。</p> 	<p>平成27年5月24日の総会において防犯委員会の編入承認</p> <p>弁天山まつり実行委員会名称を委員会に変更</p> <p>定五郎いかだ流し委員会を前川定五郎翁顕彰委員会に統合</p> <p>平成27年6月28日清和小学校において子どもフェスティバル開催</p> <p>館鹿高専の機関車と清和キッズのダンスパフォーマンス</p> <p>スボレク委員会の軽スポーツ</p> <p>アニメ定五郎物語 作文コンクール</p> 	<p>平成28年5月22日総会において自治会連合会会長の地域づくり会長と理事の各委員長就任を承認</p> <p>地域計画策定の提案</p> <p>子ども神輿2基贈呈</p>  <p>「定五郎物語」純米吟醸酒の製作と頒布を企画</p> 	<p>平成29年5月21日総会において全自治会長 幹事就任を承認</p> <p>牧田地区地域づくり協議会総会</p>  <p>平成29年5月14日館長 前川定五郎翁100年祭</p> 	<p>平成30年5月20日総会において牧田公民館運営委員会を編入と運営費を地域づくり協議会の一括交付金で管理</p> <p>文化庁に平成30年度文化芸術費地域文化遺産活性化事業補助金の申請結果採択されました。</p> <p>採択金額10,584,000円で採択。牧田地区の社寺の年間行事を撮影しDVDの制作とホームページを立ち上げ</p> 	<p>平成31年3月25日館長 中川悟の挨拶が発表されました(館長挨拶第3号)</p> <p>平成31年度文化芸術費地域文化遺産総合活用推進事業補助金の申請結果採択されました。</p> <p>採択金額2,211,000円で採択。</p> <p>(公財)国際交流協会より多文化共生活動受賞</p> <p>令和元年度館長 中川悟の挨拶</p> <p>定五郎物語作文の過去5年間の優秀作品を小冊子にして各小学校公民館に配布しました。</p> <p>また前川定五郎資料室のリニューアルと出前展示パネルを作成しました。</p> <p>牧田地区地域計画の策定(市長へ提出)</p> 
平成26年度委員会	平成27年度委員会	平成28年度委員会	平成29年度委員会	平成30年度委員会	令和元年度委員会
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校支援委員会 2. 子ども育成委員会 3. 定五郎いかだ流し委員会 4. 多文化共生委員会 5. スボレク委員会 6. 前川定五郎翁顕彰事業委員会 <p>・地震防災を考える会 ・特別委員会 まきた弁天山まつり実行委員会</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども育成委員会 2. まきた弁天山まつり委員会 3. 多文化共生委員会 4. スボレク委員会 5. 防犯委員会 6. 前川定五郎翁顕彰事業委員会 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども育成委員会 2. まきた弁天山まつり委員会 3. 多文化共生委員会 4. スボレク委員会 5. 防犯委員会 6. 前川定五郎翁顕彰事業委員会 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども育成委員会 2. まきた弁天山まつり委員会 3. スボレク委員会 4. 防犯委員会 5. 防災委員会 6. 多文化共生委員会 7. 前川定五郎翁顕彰事業委員会 8. 牧田公民館運営委員会 <p>地域計画策定委員会</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども育成委員会 2. まきた弁天山まつり委員会 3. スボレク委員会 4. 防犯委員会 5. 防災委員会 6. 多文化共生委員会 7. 前川定五郎翁顕彰事業委員会 8. 牧田公民館運営委員会 <p>地域計画策定委員会</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども育成委員会 2. まきた弁天山まつり委員会 3. スボレク委員会 4. 防犯委員会 5. 防災委員会 6. 多文化共生委員会 7. 前川定五郎翁顕彰事業委員会 8. 牧田公民館運営委員会 <p>地域計画策定委員会</p>

1 1. 地域づくりの取り組みの効果

1. 組織づくりの面

老人会、子供会など年齢階層別の組織団体と防災防犯、民生委員児童委員会、スポーツなどの目的別の団体、小学校、公民館、PTAなど公共的な組織、自治会などの地縁団体、商店連合会や大型店や会社などの法人、福祉支援ボランティア団体や環境保護団体など地域活動をする団体が一堂に会し、ネットワーク組織により地域づくり協議会を組織して一体感のある地域活動を繰り広げる。

2. 人づくりの面

自治会組織からまつり委員に若者、40代、50代や団塊の世代など様々な人材が登用され世代間の交流により、これまで地域社会に溶け込んでいなかった住民が自治会、団体役員の担い手になりうるということが証明された。

単位自治会から地域づくり協議会の部門別委員に選ばれることは、住民参加型の組織になり、住民の声の掘り起こしに繋がる。また地域コミュニティ活動の活性化になる。

公民館と地域づくりの協働で楽しい地域活動の機会や場所を増やしていくことは、潜在ボランティアの人材発掘や育成に繋がる。

公民館やコミュニティ団体が一体となって公民館事業を実施すれば文化活動、健康福祉、子育て支援、生涯学習活動のほか牧田の地域文化の継承や遺産の発掘に繋がる。

3. 実効性の面

地域が協働して実施することにより、単位自治会や個別団体だけで解決できない事業を地域課題として取り上げることになり、多くの住民の理解が得られ、解決に一步近づけることに繋がる。

NPOなど目的を持った組織同士が協働して取り組めば、質の高い活動になり、より効率的で効果的な運営が可能になる。



4. 地域づくり協議会設立によって実現したことと成果実例

- (1) 定五郎物語のアニメ制作と各地へ配布（地域教育部門＝米国バルフォンテン少年交流）
- (2) 定五郎作文コンクール事業（地域教育部門 知事賞、市長賞の創設）
- (3) 純米吟醸酒「定五郎物語」の醸造の限定販売（産業振興部門＝農業と商業販売振興）
- (4) 定五郎いかだ流し（地域交流と地域環境部門＝夏の鈴鹿川体験鈴鹿川の環境と風物）
- (5) 多文化共生活動（地域交流部門＝外国人住民と共に生きる集いの継続）
- (6) 地域活性化活動（地域交流部門＝課題であった牧田弁天山まつりによる住民交流）
- (7) 牧田文化遺産活用活性化事業（地域文化事業＝地域伝統行事を収録し後世に残す）
- (8) 牧田地区のホームページ（地域文化事業部門＝地域の文化情報を世界に発信）
- (9) 自治会と共に10年に渡る公民館建設要望（地域文化活性化部門＝牧田公民館建設）

(1) アニメDVD制作



(2) 定五郎作文コンクール



(3) 純米吟醸酒「定五郎物語」



(4) 定五郎いかだ流し



(5) 多文化共生活動



(6) 牧田弁天山まつり



(7) 文化遺産（午の砂かけ）



(8) 牧田地区のホームページ



(9) 公民館建設（完成予想図）



12. おわりに

牧田地区地域づくり協議会の10年に渡る活動をベースに、2年6ヶ月掛けて牧田地区地域計画を策定しました。地域の課題、問題は地域が自ら解決して行こうと言う強い意志を持って、地域に寄り添い、今後4年間で実行計画を遂行して行きます。

地域計画策定時、地域の皆様方より現状の問題点、課題等の収集を行いましたでしたが全ての方々から意見吸収出来なかった事や、地域計画に充分反映されていない事項等、又、鈴鹿市総合計画2023と牧田地区地域計画との整合性を考えるとき、地域経営や住民自治については、まだまだ道半ばである。次期総合計画の見直しで、牧田地区の位置づけや地域構想をもっと明確にする必要性を感じた。一部他団体との協働展開の難しさ等の懸案事項が残されています。これらの事案につきましては、実行計画の中で充分協議を行い逐次見直し取り組んで行きます。誰もが誇れる「住み良いまち牧田」の実現を目指してこれからも地域の皆様方のご支援、ご協力をお願い致します。

2020年3月1日
牧田地区地域づくり協議会
地域計画策定委員会

参 考 資 料

1. 地域カルテ
2. 地域カルテ追加項目
3. 地域計画策定本部メンバー
4. 地域計画策定作業部会メンバー
5. 地域課題別アンケートの記入項目
6. 地域課題 SWOT 分析表
7. 地域課題 SWOT 分析方法
8. 地域課題 SWOT 分析表評価結果
9. 地域計画課題カテゴリー分類
10. 地域計画ダイジェスト版